

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700343		
法人名	株式会社 SKY		
事業所名	グループホーム フェリーチェ		
所在地	愛知県知多郡東浦町石浜字飛山池上15番25		
自己評価作成日	令和5年7月31日	評価結果市町村受理日	令和5年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2395700343-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2395700343-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年8月28日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分らしさ」を失わずに過ごすことができるをモットーとする理念のもと、職員自身が入居したいと自負できるホームを目指します。ホームは自由な生活空間の場と考え、生活の主体は利用者であり自立した生活が送れるように務めています。常に笑顔絶やさず、のんびりとほんわかゆっくりと時間が過ぎていく生活リズムの中でレクリエーションとして外出、おやつレク、買い物、体操、アニマルセラピー、赤ちゃんセラピー等行いたくさんの方々の見守り、協力のもと日々検討しサービスの向上につながるようしています。職員は常に利用者様と寄り添う時間を大切に過ごす事が出来ている。また庭に花を植えて見る楽しみ、落花生・野菜を植えて収穫し食べる楽しみ、ベランダに自由に好きな時間に出て外気浴を浴び普通の生活を楽しまれています。ご家族との関係も良好で、面会も頻回に来て下さいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自分らしさ」を求める企業理念に沿い、方向性を同じくしたホームの運営理念を掲げて支援にあたっている。「自分らしさ」の実現のため、ハード面とソフト面で様々な仕組みや工夫がある。ハード面では、人間工学的な観点からゆとりある共用スペースが確保され、1階のテラス、2階のベランダは回廊を彷彿させる。中庭の樹々や庭先の菜園等には、視覚的な配慮がある。「自分らしく」暮らすために居室には数々の家具・調度が設えられ、間接照明が平穏を醸し出している。ソフト面では、利用者の意思や意向を尊重し、否定的な言葉は使用しないよう努めている。思いを口に出せない利用者にも寄り添い、表情やしぐさから思いを把握し、それを叶えようと取り組んでいる。「孫の結婚式に出たい」の実現が、まさに理念である「自分らしさ」の実践である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、目につく所に掲示し、法人・事業所目標を掲げ、それに基づいた意識の統一を図り理念や施設方針の理解を深め日々のケアに取り組み実践に繋げています。	利用者の「自分らしさ」を求める企業理念に沿い、方向性を同じくしたホームの運営理念を掲げている。ホーム内に運営理念を掲示し、またパウチしたカードを作成して理念の職員周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の区長、民生委員さんに運営推進会議に参加して頂き施設を理解してもらっています。地域貢献として区民館にて地域住民の方々と今年は張り子のウサギを作成しました。	コロナ禍によって自由な地域交流はできないが、買い物の代替として移動スーパーが毎月来訪している。社会福祉協議会の事業に協力し、管理者が地域の高齢者教室で作品づくりの講師を務めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度より地域の小学生、中学生ボランティアの受け入れを行い認知症の理解を深めてもらえるように支援していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や事故報告、行事の計画や説明を行い、ご理解とご協力を頂いています。会議出席者様よりご意見、ご要望を伺い、サービス向上につなげています。	昨秋、利用者全員がコロナ感染の状態となった。その時のみ運営推進会議が書面開催となったが、それ以外の5回は通常の対面で開催されている。毎回3~4名の家族の参加がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	東浦町より包括支援センター様、石浜区長様、生路区長様、民生委員様へ出席頂き、ご意見やアドバイス、行政からご家族へのアナウンスなどを行なっていただいています。	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員が行政枠で参加している。ホームをより多くの人に知ってもらいたいとの思いから、地域包括支援センターからは毎回別の職員に参加してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束・虐待防止委員会を開き勉強会や啓発活動を行っています。いつでも自由に出入りができる広いベランダに出て外気浴ができます。	3ヶ月に1度、同地区同法人の他事業所(サ高住)と合同で身体拘束・虐待防止委員会を開催している。直接的な身体拘束の事例はなく、スピーチロック等の間接的な身体拘束をテーマに話し合いが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束・虐待防止委員会を開き勉強会や啓発活動を行っています。言葉遣い、声掛けについて、その都度注意し防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人本部と連携し、制度や法律等に対しての知識を学ぶ機会を作りながら、幅広い視野を持ち活用出来るように準備を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学、料金、ホームでの生活について説明を行い、不安や疑問についてはしっかり傾聴し対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつも面会時に近況や状況について声を掛けさせて頂き、気軽にご意見やご要望を言って頂けるように努めています。運営推進会議でも意見交換の機会を設けて伺っています。利用者様も日頃から何時でも話しが出来るようにしています。	ホーム内にコロナが蔓延した時期(10日間)を除き、家族面会は制限なしで行われている。家族アンケートには、ホームの対応や職員の支援に対する感謝の言葉が多く寄せられた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が現場にいることで随時相談や意見交換・情報共有を行い、ケアやサービスの向上に繋げています。	所属する法人や勤務する事業所が変わっても、約20年間にわたって管理者と職場を共にする職員が数名いる。気心も分かっており、安定・充実した支援の礎となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な健康診断、ストレスチェック、面談の実施。年度毎に自己申告書にて、受けたいや仕事についての目標、法人・職場に対する希望や提案、所属部署、労働条件の変更などを記入し、伝えることができます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が毎月内部勉強会を開催し知識や技術の向上に努めている。外部研修にもこれから参加できるようコロナに負けない体制を整える。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が地域のネットワークに参加し、同業者との意見交換や研修等に参加できる体制がある。交流を通し、モチベーション向上や知識・技術の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの暮らしや生活環境、困っている事などの情報収集を行い、職員間で共有し、不安なくホームでの生活を送ることが出来るように、コミュニケーションを図り信頼関係をつくります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の思いや意向を十分に聴き、安心感を持って頂けるよう気軽に話しができる雰囲気づくりを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様や関係者の方に今までの経過を伺い、ホームでの生活のながれや提供するサービスを説明し、確認を行っています。個々の状態の変化に合わせ、最適なサービスを提供し支援をいたします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が、出来る事、出来ない事を職員が発見、把握し役割を決め自信をもって生活を送って頂いています。利用者様から教わる場面も沢山あります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会時には、日々の様子を伝えたり、お便り、電話で報告している。運営推進会議にも参加頂きご意見やご要望の提案にご協力いただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等の制限期間が、短かったので家族様も普通に会うことが出来ていたとおもいます。花見に車でドライブ等外出したり、家族様とのお出かけも個々に出来ています。	地域の友人・知人の来訪が多いが、面会は家族の了解が得られている者に限られる。山野に囲まれ、4時半には雉が、7時半には鶯が、夜になれば狸がやってくる。これらもお馴染みさんである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者様同士が協力されている場面もある。利用者様個々に対しての関わり方を職員間で話し合い、人間関係が円滑に保たれるように関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、家族様の相談があれば管理者等に情報を共有し対応している。家族様からも気軽にその後の様子を聞かせて下さる関係が続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話・表情・態度・しぐさ等を意識しながら検討しケアカンファレンスを通じて、思いや希望を聴き取り、把握するようにつとめている。	平均介護度が3.1であり、要介護度4が4名、要介護度5が3名と、自らの意思や意向を表出できる利用者は少ない。表情やしぐさから意向を汲み取り、可能な範囲で実現に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネジャー等から情報収集を行い、今までの生活リズムや生活スタイルを尊重したサービス提供を行い、ご自分の家での暮らしに近づける様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自分の家で安心・快適に過ごされていた時の気持ちを崩さないように、今のご本人の状態に合わせた環境整備や必要なケアを検討しながら現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の思いを汲み取りながら家族様からは面会時に要望や意見を聴き介護計画を作成している。また変化があり次第カンファレンスを行い、見直しや立案等を行っている。	利用者の状態に変化があれば即時介護計画を見直す。状態の安定している場合は定期1年(短期目標)で見直している。利用者の意向を叶えるための介護計画を作成している。	利用者の意向(孫の結婚式に出たい)が、介護計画(体力の増強)に反映されているが、「総合的な援助の方針」の中に、その繋がりを明確に記すことが望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録については個人ファイルに記入しています。気づきや提案などは申し送りノートに記入し情報共有を行っている。また朝のミーティング時に介護計画の実施や見直しについて話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人家族様それぞれの状況や要望、意見を聴き、職員の提案も柔軟にサービスに取り入れ支援出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の区長、民生委員さんに運営推進会議において情報交換を行っています。また、有償ボランティアによる理美容をホーム内で実施しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回内科の主治医が往診に来て、血液検査や日頃の健康相談、薬の処方等行い、何かあると医師から家族に直接連絡対応して頂いています。歯科も定期的に往診に来て歯の治療、ケアを行っています。	月2回、ホーム協力医(内科)と歯科医が訪問診療に訪れている。歯科衛生士が週に2~3回来訪し、利用者全員の口腔ケアを担当している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職員が3名がいます。ほぼ看護師がいるので情報共有が出来安心して生活ができています。看護師も介護職員と同じ動きをして夜勤も入っています。レクリエーションもしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ速やかに施設・主治医から情報提供を行っています。こまめに家族様や入院先の相談員に連絡をとり状態確認し早期退院へ向けて必要な調整や準備を行い、退院会議に参加し、円滑な生活の移行に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りについて、ご家族、ご本人と管理者が話し合い指針の同意書にサインをもらい理解して頂いている。看取り対応する際には医師、介護、看護等連携をとりながら支援を検討、調整していきます。	利用開始時にホームの看取り指針を説明し、利用者・家族の同意を得ている。協力医もホームでの看取りに理解があり、今回の訪問調査の5日前にも1名の利用者を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習、AED研修等を消防署で受けるようにしています。施設でもAEDの研修等行ないます。マニュアルに沿って実践出来るようにする。医師との連携対応が行えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回夜間、火災、地震想定で避難訓練を実施し、避難の際の手順や経路の確認をしています。災害時の連絡手段として、アプリを使用した伝言訓練も実施します。地域との協力体制は今後築けるよう働きかけます。	ハザードマップ上では災害警戒無指定地域であるが、3月と9月に防災訓練を行っている。コロナ対策のために大型空気清浄機が設置されており、除菌用の薬剤噴霧器も備えられている。	隣地に他法人の大型介護施設が建設中であり、完成(開業)後には当ホームとの合同防災訓練を実施することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の立場や思いが考えられるように日々のケアに努めている。優しい言葉遣い、プライバシー等日ごろから配慮している。	職員は利用者の意思や意向を尊重し、否定的な言葉は使用しないよう努めている。家族からも、職員の利用者に対する言葉遣いや対応に関して、高い評価を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動や会話から思いや意見を汲み取り、選択の出来る言葉かけをします。ゆっくり時間をかけて自己決定が行えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なタイムスケジュールは有りますが、利用者様のペースを尊重し無理強はしません。起床や食事、入浴などの時間は、柔軟に対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は、毎月一回来てもらっています。好みの衣服を家族に持ってきてもらい、ご自分で選んでオシャレに過ごしていただけます。毎朝鏡の前で髪をとかしリビングルームに来られます。できない方は職員がお手伝いします。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは調理の専門のスタッフが作っているが、おやつ作り等は利用者様と一緒に作って食べている。配膳、片付け、テーブルふきは利用者様と行っています。	ホーム内に厨房とキッチンがあり、朝食と昼食は厨房で業務委託先の社員が作り、夕食は職員がキッチンで作っている。おやつレクや試食品づくりに、キッチンが有効活用されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量をチェック表に記載し把握できるようにしている。水分はこまめに提供。食事形態や提供する量は状態に応じて調製、苦手な食べ物に関しては代替品の提供で対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔状態の確認、チェック、義歯の管理を行っている。訪問歯科を利用し歯科医師、衛生士から指導を受けて口腔内の清潔保持できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄リズムに沿ったパターンを把握してさりげない声掛けトイレ誘導を心がけ、快適な排泄支援を行っています。	終日布パンツで過ごす利用者は少ないが、車いすの利用者も含め、昼間は全員がトイレで排泄している。夜間は睡眠重視で、ベッドでおむつやパッドを交換する利用者もいるが、多くはトイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防にヤクルト、ヨーグルトなどの乳製品を毎日提供しています。適度に体操や散歩など体を動かすように努めています。排泄チェック表を活用し排泄状況の把握をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてあるが、希望による場合何時でも入りたい時に好みの湯温に調整し、気分良く入って頂けるよう配慮している。季節を感じて頂けるよう菖蒲湯、ゆず湯、バラ湯、ハーブ湯等行っている。	週に2～3回の入浴を支援している。1階ユニットには機械浴槽が設置されており、1階ユニットの8名、2階ユニットの2名が利用している。入浴拒否の利用者はおらず、同性介助が基本となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やリズム、体調に合わせて昼休憩や就寝をして頂いている。睡眠に支障がみられるかたは、主治医、家族と相談し、内服薬の調整を行う場合もある。寝具は定期的に交換、洗濯をします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師との連携を図り個々の服薬について情報共有を行っている。職員も薬の勉強会に参加し効能、副作用等々理解出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夏祭りとして金魚すくい、風船釣りを行いました。おやつ作り。季節の行事、行事食。誕生日会。出来ること役割の支援(洗濯物たみ、テーブルふき、花壇の手入れ草取り等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるように桜、藤、バラ、菖蒲、梅、睡蓮等の花見に車で外出します。希望ある方には、個別にお墓参りにお連れしています。	人混みを避け、平日に花見の外出支援を行った。午前と午後に分散して出かけ、利用者全員が花見を楽しんだ。2階南面には回廊式のベランダがあり、利用者は自由に居室から出て外気欲をしたり、ベンチに座って会話をしたりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者・家族様の意向を聞きながら、月1回の移動販売パローで買い物が出来るようにお小遣いを施設管理で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取り次や、ご希望される方には電話の利用を支援しています。ご自分で字が書ける方は葉書、便箋封筒を用意し書いて家族や友人に郵送しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、居室、廊下全ての位置から木や植物が見えます。四季折々の花がさきます。朝方、雉や鶯が庭に来て鳴き声がきけます。何時でも自由にベランダに出れます。	食堂を兼ねたリビングや玄関ホール、通路は広く、ホーム内のいたるところにフリースペースがある。1階のテラス、2階のベランダにはベンチが置いてあり、利用者の格好の癒しの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	互いの日常生活の中での関係性や相性に配慮しリビングの座席配置を決めている。独りになれるスペースとして廊下や玄関前に座ってのんびりできるソファ、ベンチがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きなものを持ち込まれたり、飾ったり、居心地よく過ごせるようにお部屋を作り、安心して過ごせるように配慮している。	全ての居室に洗面台やクローゼット、机、箆笥、ベッド、エアコンが設置され、照明は間接照明である。どの居室の窓からも中庭の樹々や外部の風景が見られ、四季の移ろいを感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアや廊下の環境整備、防犯カメラ設置、安全確認を適宜行い、事故防止に務めています。状態に合わせて歩行器やシルバーカー、人感センサーの使用、安全に自立した生活が送れるようにしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700343		
法人名	株式会社 SKY		
事業所名	グループホーム フェリーチェ		
所在地	愛知県知多郡東浦町石浜字飛山池上15番25		
自己評価作成日	令和5年7月31日	評価結果市町村受理日	令和5年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigovosyoCd=2395700343-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigovosyoCd=2395700343-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分らしさ」を失わずに過ごすことができるをモットーとする理念のもと、職員自身が入居したいと自負できるホームを目指します。ホームは自由な生活空間の場と考え、生活の主体は利用者であり自立した生活が送れるように務めています。常に笑顔を決やらず、のんびりとほんわかゆっくりと時間が過ぎていく生活リズムの中でレクリエーションとして外出、おやつレク、買い物、体操、アニマルセラピー、赤ちゃんセラピー等行いたくさんの方々の見守り、協力のもと日々検討しサービスの向上につながるようになっています。職員は常に利用者様と寄り添う時間を大切に過ごす事が出来ています。また庭に花を植えて見る楽しみ、落花生・野菜を植えて収穫し食べる楽しみ、ベランダに自由に好きな時間に出て外気浴を浴び普通の生活を楽しまれています。ご家族との関係も良好で、面会も頻回に来て下さいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、目につく所に掲示し、法人・事業所目標を掲げ、それに基づいた意識の統一を図り理念や施設方針の理解を深め日々のケアに取り組み実践に繋げています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の区長、民生委員さんに運営推進会議に参加して頂き施設を理解してもらっています。地域貢献として区民館にて地域住民の方々と今年は張り子のウサギを作成しました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度より地域の小学生、中学生ボランティアの受け入れを行い認知症の理解を深めてもらえるように支援していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や事故報告、行事の計画や説明を行い、ご理解とご協力を頂いています。会議出席者様よりご意見、ご要望を伺い、サービス向上につなげています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	東浦町より包括支援センター様、石浜区長様、生路区長様、民生委員様に出席頂き、ご意見やアドバイス、行政からご家族へのアナウンスなどを行なっていただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束・虐待防止委員会を開き勉強会や啓発活動を行っています。いつでも自由に入出りができる広いベランダに出て外気浴ができます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束・虐待防止委員会を開き勉強会や啓発活動を行っています。言葉遣い、声掛けについて、その都度注意し防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人本部と連携し、制度や法律等に対しての知識を学ぶ機会を作りながら、幅広い視野を持ち活用出来るように準備を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学、料金、ホームでの生活について説明を行い、不安や疑問についてはしっかり傾聴し対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつも面会時に近況や状況について声を掛けさせて頂き、気軽にご意見やご要望を言って頂けるように努めています。運営推進会議でも意見交換の機会を設けて伺っています。利用者様も日頃から何時でも話しが出来るようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が現場にいて随時相談や意見交換・情報共有を行い、ケアやサービスの向上に繋げています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な健康診断、ストレスチェック、面談の実施。年度毎に自己申告書にて、受けたいや仕事についての目標、法人・職場に対する希望や提案、所属部署、労働条件の変更などを記入し、伝えることができます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が毎月内部勉強会を開催し知識や技術の向上に努めている。外部研修にもこれから参加できるようコロナに負けない体制を整える。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が地域のネットワークに参加し、同業者との意見交換や研修等に参加できる体制がある。交流を通し、モチベーション向上や知識・技術の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの暮らしや生活環境、困っている事などの情報収集を行い、職員間で共有し、不安なくホームでの生活を送ることが出来るように、コミュニケーションを図り信頼関係をつくります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の思いや意向を十分に聴き、安心感を持って頂けるよう気軽に話しができる雰囲気づくりを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様や関係者の方に今までの経過を伺い、ホームでの生活のながれや提供するサービスを説明し、確認を行っています。個々の状態の変化に合わせ、最適なサービスを提供し支援をいたします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が、出来る事、出来ない事を職員が発見、把握し役割を決め自信をもって生活を送って頂いています。利用者様から教わる場面も沢山あります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会時には、日々の様子を伝えたり、お便り、電話で報告している。運営推進会議にも参加頂きご意見やご要望の提案にご協力いただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等の制限期間が、短かったので家族様も普通に会うことが出来ていたとおもいます。花見に車でドライブ等外出したり、家族様とのお出かけも個々に出来ています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者様同士が協力されている場面もある。利用者様個々に対しての関わり方を職員間で話し合い、人間関係が円滑に保たれるよう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、家族様の相談があれば管理者等に情報を共有し対応している。家族様からも気軽にその後の様子を聞かせて下さる関係が続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話・表情・態度・しぐさ等を意識しながら検討しケアカンファレンスを通じて、思いや希望を聴き取り、把握するようにつとめている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネジャー等から情報収集を行い、今までの生活リズムや生活スタイルを尊重したサービス提供を行い、ご自分の家での暮らしに近づける様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自分の家で安心・快適に過ごされていた時の気持ちを崩さないように、今のご本人の状態に合わせた環境整備や必要なケアを検討しながら現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の思いを汲み取りながら家族様からは面会時に要望や意見を聴き介護計画を作成している。また変化があり次第カンファレンスを行い、見直しや立案等を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録については個人ファイルに記入しています。気づきや提案などは申し送りノートに記入し情報共有を行っている。また朝のミーティング時に介護計画の実施や見直しについて話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人家族様それぞれの状況や要望、意見を聴き、職員の提案も柔軟にサービスに取り入れ支援出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の区長、民生委員さんに運営推進会議において情報交換を行っています。また、有償ボランティアによる理美容をホーム内で実施しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回内科の主治医が往診に来て、血液検査や日頃の健康相談、薬の処方等を行い、何かあると医師から家族に直接連絡対応して頂いています。歯科も定期的に往診に来て歯の治療、ケアを行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職員が3名がいます。ほぼ看護師がいるので情報共有が出来安心して生活ができています。看護師も介護職員と同じ動きをして夜勤も入っています。レクリエーションもしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ速やかに施設・主治医から情報提供を行っています。こまめに家族様や入院先の相談員に連絡をとり状態確認し早期退院へ向けて必要な調整や準備を行い、退院会議に参加し、円滑な生活の移行に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りについて、ご家族、ご本人と管理者が話し合い指針の同意書にサインをもらい理解して頂いている。看取り対応する際には医師、介護、看護等連携をとりながら支援を検討、調整していきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習、AED研修等を消防署で受けるようにしています。施設でもAEDの研修等行ないます。マニュアルに沿って実践出来るようにする。医師との連携対応が行えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回夜間、火災、地震想定で避難訓練を実施し、避難の際の手順や経路の確認をしています。災害時の連絡手段として、アプリを使用した伝言訓練も実施します。地域との協力体制は今後築けるよう働きかけます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の立場や思いが考えられるように日々のケアに努めている。優しい言葉遣い、プライバシー等日ごろから配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動や会話から思いや意見を汲み取り、選択の出来る言葉かけをします。ゆっくり時間をかけて自己決定が行えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なタイムスケジュールは有りますが、利用者様のペースを尊重し無理強はしません。起床や食事、入浴などの時間は、柔軟に対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は、毎月一回来てもらっています。好みの衣服を家族に持ってきてもらい、ご自分で選んでオシャレに着こなしておられます。毎朝鏡の前で髪をとかしリビングルームに来られます。できない方は職員がお手伝いします。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは調理の専門のスタッフが作っているが、おやつ作り等は利用者様と一緒に作って食べている。配膳、片付け、テーブルふきは利用者様と行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量をチェック表に記載し把握できるようにしている。水分はこまめに提供。食事形態や提供する量は状態に応じて調製、苦手な食べ物に関しては代替品の提供で対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔状態の確認、チェック、義歯の管理を行っている。訪問歯科を利用し歯科医師、衛生士から指導を受けて口腔内の清潔保持できるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄リズムに沿ったパターンを把握してさりげない声掛けトイレ誘導を心がけ、快適な排泄支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防にヤクルト、ヨーグルトなどの乳製品を毎日提供しています。適度に体操や散歩など体を動かすように努めています。排泄チェック表を活用し排泄状況の把握をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてあるが、希望による場合何時でも入りたい時に好みの湯温に調整し、気分良く入って頂けるよう配慮している。季節を感じて頂けるよう菖蒲湯、ゆず湯、バラ湯、ハーブ湯等行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やリズム、体調に合わせて昼休憩や就寝をして頂いている。睡眠に支障がみられるかたは、主治医、家族と相談し、内服薬の調整を行う場合もある。寝具は定期的に交換、洗濯をします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師との連携を図り個々の服薬について情報共有を行っている。職員も薬の勉強会に参加し効能、副作用等々理解出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夏祭りとして金魚すくい、風船釣りを行いました。おやつ作り。季節の行事、行事食。誕生日会。出来ること役割の支援(洗濯物たたみ、テーブルふき、花壇の手入れ草取り等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるように桜、藤、バラ、菖蒲、梅、睡蓮等の花見に車で外出します。希望ある方には、個別にお墓参りにお連れしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者・家族様の意向を聞きながら、月1回の移動販売パローで買い物が出来るようにお小遣いを施設管理で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取り次や、ご希望される方には電話の利用を支援しています。ご自分で字が書ける方は葉書、便箋封筒を用意し書いて家族や友人に郵送しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、居室、廊下全ての位置から木や植物が見えます。四季折々の花がさきます。朝方、雉や鶯が庭に来て鳴き声がきけます。何時でも自由にベランダに出れます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	互いの日常生活の中での関係性や相性に配慮しリビングの座席配置を決めている。独りになれるスペースとして廊下や玄関前に座ってのんびりできるソファ、ベンチがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きなものを持ち込まれたり、飾ったり、居心地よく過ごせるようにお部屋を作り、安心して過ごせるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアや廊下の環境整備、防犯カメラ設置、安全確認を適宜行い、事故防止に務めています。状態に合わせて歩行器やシルバーカー、人感センサーの使用、安全に自立した生活が送れるようにしています。		